



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 101 号(2015 年 1 月 9 日発行)
発行：岡山大学法学部 学部長室

=====
本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

目次

- 年頭にあたって
- 在学生の活躍から（世界ジュニアパワーリフティング選手権に参加して）

- ○ 年頭にあたって

みなさま、明けましておめでとうございます。午年であったからでしょうか、去年はそれこそ一気に駆け抜けて行った年でした。今年は無年、どんな年になるのでしょうか。みなさまにとりまして、よき一年になりますことをお祈りいたします。

全国 17 の国公立大学法学部の連絡組織として、国公立大学法学部連絡会議があります。昨年（10月3、4日）は香川大学を当番校に、統一テーマ「大学改革と法学教育の針路」の下、①法学部における英語教育による講義、②法学部・大学院におけるグローバル化の要請への対応、③ロースクール・法学部離れへの対策、の3つの協議項目をめぐり、各法学部の取組状況を紹介しつつ議論を行いました。このうち①と②は、本学全体でも懸案事項であり、その点からも各法学部の取組みが注目されました。詳しくは紹介できませんが、ごく大雑把にいきますと、岡大法学部の状況は、英語による授業や海外大学への派遣学生数など、少なくとも全体の三分の一内に入るといえるものでした。他方、本学における法学部の状況を見ますと、後ろから三分の一内に確実に入っていると思われまふ。ほかの大学の法学部も、それぞれの大学全体の中では、おそらく岡大法学部と似たような状況にあるのではないのでしょうか。

学部長として大学（学部）改革に取り組むようになってから痛感していますのは、改革の波に乗り切れない法学部（特に法学教育）の特質であり、他大学法学部でも事態はそれほど変わらないかと思ひます。原因としていろいろなことが考えられますが、真っ先に挙げたいのは「ことば」です。例えば、句点の付け方ひとつで法律条文の意味が変わり得ることを、どうすれば留学生に誤りなく伝えることができるのか、考えざるを得ません。

また、上記③に関しては、一昨年の岡山での連絡会議の際には、旧帝大系法学部とそれ以外の法学部との間で顕著な認識のズレがありましたが、昨年の会議では一様に危機感が表明されました。ある帝大系法学部からは、前期日程入試の実質倍率と AO 入試の倍率がはじめて 2 倍を割り込んだとか、同様に著名大学法学部からも、同大ロースクールへの進学者が 2 割を割り、成績優秀者がロースクールを目ざさなくなったとか、指摘されていました。

どちらにしましても、「冬来たりなば春遠からじ」の心意気で、春の到来を待つつもりです。そういえば、無年は「辛抱」の年ということですか。

法学部長 小山正善

○ 在学生の活躍から（世界ジュニアパワーリフティング選手権に参加して）

皆さんこんにちは。岡山大学法学部4回生の竹内裕美と申します。黒神先生の国際法ゼミに所属しています。

私は岡山大学のウェイトトレーニング部に入っており、昨年9月1日～6日にハンガリーで行われた第32回世界ジュニアパワーリフティング選手権のジュニア女子63kg級に出場しました。世界の舞台は国内大会とは全く異なる雰囲気、試合に向けた調整も非常に難しいということを感じました。結果はスクワット150kg、ベンチプレス65kg、デッドリフト160kgのトータル375kgで第9位でした。個人的には悔いの残る結果となりましたが、強い選手たちの試技を間近で見ると良い刺激を受けることができましたし、世界大会で学んだことをこれからの練習や競技にも生かしていきたいと思えます。

さて、パワーリフティングという競技はスクワット、ベンチプレス、デッドリフトというウェイトトレーニングのBIG3と呼ばれる3種目のトータル重量を競うものです。岡大ウェイトトレーニング部はこの競技で過去10回のインカレ団体総合優勝の経験があり、全国屈指のチームです。よくウェイトリフティング競技と間違われるのですが、パワーリフティングは頭上までバーベルを持ち上げません。そのため未経験者でも簡単に競技を始められます。私もつい最近競技歴一年を迎えたばかりですし、当部の部員のほとんどは大学から競技を始めました。私がウェイトトレーニング部に入ったのは、現在の顧問の先生の勧めがきっかけでした。私はEPOKという岡山大学の交換留学制度を使い、2年生後期から約1年間イギリス・エディンバラ大学にて留学をしていました。その留学生活で増えてしまった体重を減らしたかった私と、女子部員が欲しいという部の利害が一致し、晴れて入部ということになったのです。中学・高校と陸上競技部に所属し、短距離と投擲種目が専門でウェイトトレーニングの経験は少しあったので、練習にはすぐに慣れました。

初めての公式戦は一昨年12月の秋季関西学生パワーリフティング選手権大会でした。この時は女子63キロ超級で第3位でした。今年2月の岡山県パワーリフティング大会では、デッドリフト種目でジュニア女子63kg級の日本記録を更新しました。そして昨年5月に長野県白馬村で全日本ジュニアパワーリフティング選手権という国内予選があり、階級で第1位になることができたので、世界大会への出場権を獲得しました。競技を始めてから半年で日本記録を更新し、1年未満で日本代表選手になりましたが、これは自分1人で達成できたことではありません。家族や友人の支え、先生方やコーチ、部の先輩方、現役部員や地域の方々の応援とご指導のおかげでこのような成績を残すことができました。

団体戦のために増量して上の階級に出場するなど大変なこともあります。この部に入って良かったです。また、今回世界の大舞台でも、英国留学の経験があったので、環境の変化に比較的すぐに順応できましたし、多くの国の選手たちと交流することができました。これまでの経験の積み重ねが自分の成長につながっていることを大いに実感した次第です。

法学部生の皆さんに伝えたいのは、限りある大学生活を有効に使ってほしいということです。継続して何かひとつのことに打ち込んだ経験、集団でひとつの目標に向かって努力した経験は社会に出てからもきっと役に立つでしょう。興味を持ったことには積極的に挑戦して、身近にあるチャンスを無駄にせず自分を成長させていってください。

そして興味があればウェイトトレーニング部にも是非遊びに来てください。特に女子部員を募集しています！

法学部四回生 竹内裕美

- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
- ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/index.html>
- ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
- ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/local/mail/index.html>
- ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。